

第1回合同ワーキンググループの報告

分析に関する議論

- ・既存の小型家電のレアメタル分析データに関しては、地域、回収品目等について、均質性、代表性があるものではなく、レアメタルの含有傾向を把握するものである。
- ・また分析手法に関しても、溶出試験については廃棄物に対して適用される方法と、土壌に対して適用される方法があり試験方法に差異がある。小型家電の分析試料作成の考え方、方法も定められたものはない。
- ・データの比較分析のために分析手法が同じであることが望ましいが、現時点では標準化するための実績も少ないことから、データとともに試料調整を含めた分析方法を明示し比較対照が可能であるよう配慮すること、モデル事業実施自治体間での情報共有化を図っていくことが必要。

レアメタル回収に関する議論

- ・製品中のレアメタルは、製造プロセス中の工程屑等よりも濃度が低く、リサイクル面での難易度が高い。リサイクルできるレベルにするには、レアメタル回収の技術、システム双方での対応があり、ワーキンググループでは技術的に検討していく。
- ・現在、電子基板をリサイクルしている非鉄製錬の一般的特徴を確認するとともに、基板中のレアメタルが工程のどこで回収されているのか、あるいは回収されていないのかを整理しておくことが重要。
- ・レアメタル回収技術として非鉄製錬の乾式法以外の湿式法等についても、情報の収集・共有化が必要。
- ・使用済小型家電の中間処理の技術とその産物について、既存のレアメタル回収プロセスとの関係（受入の可否、条件等）を把握し、小型家電からレアメタルを回収するために必要となる中間処理や製錬の要件を整理することが必要。
- ・レアメタル回収の研究開発の推進に当たっては、その需要の動向把握や回収の意義が示されることが必要。

環境管理に関する議論

- ・中間処理も含めてレアメタル回収から廃棄物・処理困難物が発生すると考えられるが、その処理コストも含めた議論が必要。その観点から、モデル事業における廃棄物の発生量や処理状況の整理も必要。
- ・欧米、アジアにおける動向を、リサイクルにおける回収技術や資源利用の点も踏まえて考慮しておくことが必要。
- ・現在、有害性のデータが揃っている金属は、これまでに社会的に流通量が非常に多かったものが中心で、レアメタルのようなこれまであまり流通していない金属の有害性などのデータは少ない。

以上